復興加速化会議（第6回）について

国土交通省

日時・場所

日　時　：　平成27年12月19日（土）13:00～14:40
場　所　：　仙台合同庁舎B棟　12階　会議室



出席者

【国】国土交通省　石井大臣、技監、技術審議官、土地・建設産業局長、都市局長、住宅局長、
　　官庁営繕部長、東北地方整備局長　他
【地方公共団体】宮城県知事、岩手県知事、福島県副知事、仙台市長　他
【業界団体】東北建設業協会連合会、日本建設業連合会東北支部、
　全国生コンクリート工業組合連合会東北地区本部、宮城県地域型復興住宅推進協議会　他

各参加機関・団体の主な発言

宮城県
「復興係数」の導入や労務単価の前倒し改定等の施工確保対策の効果はきわめて大きく、復旧・復興事業の加速化に大きく寄与。各種対策の継続とともに、建設業の担い手の育成・確保やICT技術を活用した生産性向上などにも取り組んでいただきたい。

岩手県
復興道路・支援道路の整備や港湾の復旧・整備等がかなりのスピードで進捗。これらのインフラ整備を見越した企業立地やフェリー航路開設等、地域活性化の動きを確かなものにしていきたい。

福島県
原子力災害からの復興は長期に及ぶことが見込まれることから、必要な予算措置をお願いしたい。復興加速化に向け「復興係数」等の各種対策の継続や生産性の向上、事業の平準化が必要。

仙台市
市の復興公営住宅の建設や防災集団移転など、住宅再建事業は概ね予定どおり完了。これから多重防災施設等の備えを進めたい。

東北建設業協会連合会
施工場所の集中等により、施工効率が低下した状況となっていることから、施工確保対策の継続が何としても不可欠。また、生産性の向上に向けたプレキャスト化や情報化施工は重要課題。さらに、担い手確保に向け、産・学・官からなる検討委員会を立ちあげ検討を開始した。

日本建設業連合会東北支部
手持ち工事量は、震災前に比べ大幅に増加しているが、様々な取組により、受注余力の確保に努めている。復興係数や復興歩掛り、設計労務単価の引き上げについては、非常に心強く感じている。復興事業の中心が建築工事に移行している中、「営繕積算方式」が、災害公営住宅建設、学校・病院等公共施設等に有効に活用されている。

全国生コン工業組合連合会　東北地区本部
被災3県の生コン供給体制については、国直轄の2工場、宮城県との公共関与型4工場、更に各協同組合運営の新設工場が稼働し、全体的に増強され、安定供給が図られている。今後も、万全な出荷体制を整えていきたい。

地域型復興住宅推進協議会
地域型復興住宅として、地元の大工、工務店等、地域に根ざした方々と連携するためのマッチングサポートを被災3県で進めている。さらに、高齢者の方々や小家族の方々向けの「小規模住宅プラン」の提案も行っている。

大臣発言のポイント

○大臣就任後、被災3県をそれぞれ視察し、道路や鉄道等の基幹インフラの復旧をはじめ、復興への確かな歩みが見られてきていることを実感。
○「「復興係数」を継続することが、復興事業を着実に進めるために重要である」という県知事・市長の皆様からの声をしっかりと受け止め、「復興係数」を継続するとともに、復興の更なる加速という観点から、全国展開に先立ち、生産性向上を図るうえでの「i-Construction」を東北地方で進めていく。
○未だ避難されている方々が一日も早く復興を実感できるよう、皆様方と情報共有を行いながら、力を合わせて取り組んで参りたい。

電話 0225-96-9601 Fax96-9602
大崎支局 〒989-6117
大崎市古川旭6-4-12
オフィス佐藤2-b
電話0229-22-1077 Fax22-0049
気仙沼通信部 0226-22-6980
白石通信部 0224-25-2296
ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/local/

YC 購読は 0120-4343-81

岩沼 22-2532 名取 382-3068
船岡 54-2040 中央 223-2362
長町 248-1318 太白 245-1935
小田原262-2305 東仙台251-6025
桜ヶ丘278-4475 泉東部351-7727
塩釜 362-8001 多賀城361-3833

【販売事務】 仙台022-262-5807
ホームページ
https://www.miyagi-yomiuri.co.jp/
【広告】仙台
読売エージェンシー東日本022-266-1562
【折込広告】 仙台022-387-3300
【読売旅行】 仙台022-222-5811
古川0229-21-1911

12月21日（月曜日）
旧 11月11日<先負>

あすの暦

月齢 9.7
（正午）



仙台標準		鮎川	
日出	6.49	満潮	11.15
日入	16.19		
月出	13.16	干潮	4.39
月入	1.41		18.40
			（若潮）

球場に観覧車

コボスタで日本初

グラウンドも天然芝に

楽天イーグルスは、来季に向け、本拠地・楽天Koboスタジアム宮城（コボスタ宮城）の改修を進めている。左中間スタンドの後方に、高さ36mの観覧車を新設するのが目玉だ。球団によると、米国には観覧車のある球場があるが、国内では初めて。早ければ来年5月に完成する。

観覧車は4人乗りのゴンドラ16台を備え、5分15秒で1周する。左中間スタンドを拡大して、これまでより3000人多い約7000人が収容できる公園を整備し、その一角に設ける。米大リーグのような「ボールパーク」を目指し、野球観戦にとどまらず、球場全体を楽しんで過ごせる空間にする。

改修ではこのほか、内外野のフィールドを人工芝から天然芝に張り替える。寒さ対策として、芝の下から温風を吹き込むなど土壌の温度や水分の管理を行うことで、年間を通して鮮やかな芝生を見ながら観戦できるという。スコアボードは全面LED（発光ダイオード）化する。

改修に伴い、球場の収容人数は今季の2万8451人から、3万人を超える。総工費は観覧車の約2億円を含め約30億円。観覧車以外は、シーズン開幕前の3月下旬の完成を予定している。

今季は2年連続の最下位に終わったが、主催試合の観客動員数は152万4149人（1試合平均2万1467人）で、3年連続で記録を更新した。梨田昌孝監督は「球場が来年から変わる。ファンの皆さまはボールパークで楽しんでほしい。ファンとともに戦う雰囲気を作っていきたい」と話している。



クリスマス会を楽しむ仮設住民ら（仙台市若林区の卸町五丁目公園仮設住宅で）

仮設の思い出胸に
住民ら最後の企画

来年春に閉鎖が予定される仙台市若林区の卸町五丁目公園仮設住宅で19日、最後のイベントとなるクリスマス会が開かれた。約40人の住民らが集会所にクリスマスツリーを設置するなどし、それぞれ料理やケーキを持ち寄った。

サンタクロースに扮した市職員が子どもたちに菓子を配り、モンゴルの伝統楽器「馬頭琴」奏者のバヤラトさん(39)が「見上げてごらん夜の星を」など6曲を披露。仮設で暮らす原田幸那さん(28)は「手作り感があって心が温かくなった」と喜んだ。

イベントを主催した自治会の渡辺政志会長(76)は「ここでの思い出を大切にしつつ、それぞれの生活を取り戻していけたら」と話していた。

復興工事にドローン、IT

国交相が積極活用方針

石井国土交通相は19日、東日本大震災の被災地で進む復興工事で、2016年度から、小型無人機「ドローン」や情報技術（IT）を積極的に活用していく方針を明らかにした。工期の短縮など作業効率を高める狙いだ。

石井国交相は、仙台市内で開かれた国交省主催の復興加速化会議で、ITの活用について「将来の担い手不足の解消にもつながる。東北地方で先進的に進めていきたい」と述べた。

測量ではドローンを使って工事前の現場を撮影し、3次元データを作成。これを基に自動制御の建設機械で工事を行い、終了後の検査にもドローンを活用するなど、工期の短縮や省力化につなげる。

一方、被災地で相次ぐ公共工事の入札不調を防ぐため、予定価格を引き上げる特別措置を16年度も継続する。当初は15年度で終わる予定だった。

会議に出席した村井知事は「事業者が仕事をしやすい環境を作ることが復興を早めることになる」と歓迎した。

アイベックス、仙台7便欠航

航空会社のアイベックスエアラインズ（東京都）は19日、仙台空港を発着する7便を欠航した。機体のやりくりがつかなかったのが原因という。

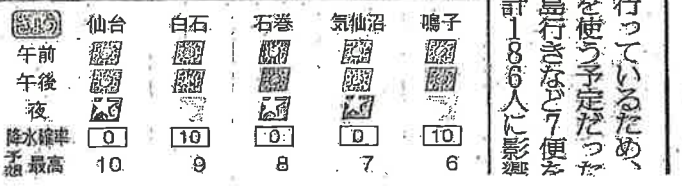
17日午前、小松発仙台行き62便が飛行中、機体に落雷を受けた。運航に影響はなかったが、着陸後から機体の点検や部品交換などを行っているため、を使う予定だった島行きなど7便を計186人に影響した。

野区白鳥、会社員安者(45)を道路交通法帯び運転）の疑いでした。

発表によると、安同日午前0時35分頃区遠見塚の国道4号帯びた状態で乗用車疑い。信号待ちで止乗用車に接触するなし、発覚した。

公務執行妨害

古川署は19日、石通り、無職末永善洋



第１回 震災復興 i-Construction（ICT 技術）連絡会議
議　事　次　第　（案）

日　　時　；　平成２８年１月１８日（月）１６：００～１７：３０
開催場所　；　東北地方整備局　２Ｆ　第１会議室
　　仙台市青葉区本町３－３－１　仙台合同庁舎Ｂ棟

１．開　　会

２．あいさつ
　　東北地方整備局長

３．出席者紹介

４．議　　事
　（１）i-Construction の概要
　（２）スマートコンストラクションの紹介
　（３）東北地方整備局の検討方針
　（４）国、自治体及び業団体等における ICT の取組状況
　（５）その他

５．閉会

震災復興i-Construction（ICT）連絡会議

【学識者】

所　属	役職名	氏　名	摘　要
東北大学大学院環境科学研究科	教授	高　橋　　弘	
東北大学大学院工学研究科	准教授	皆　川　　浩	

【国土交通省】

所　属	役職名	氏　名	摘　要
大臣官房技術調査課	環境安全・地理空間情報技術調整官	柿　崎　恒　美	

【自治体・国・業界団体等】

所　属	役職名	氏　名	摘　要
宮城県	土木部長	遠　藤　信　哉	
岩手県	県土整備部長	蓮　見　有　敏	
福島県	土木部長	大　河　原　聡	
仙台市	都市整備局長	小　島　博　仁	
東北建設業協会連合会	会長	佐　藤　博　俊	
日本建設業連合会	東北支部長	竹　浪　　浩	
日本埋立浚渫協会	東北支部長	柳　田　良　一	
日本建設機械施工協会	東北支部副支部長	太　田　和　宏	
建設コンサルタンツ協会	東北支部長	遠　藤　敏　雄	
東北測量設計協会	会長	鵜沼　順二郎	
東北地方整備局	企画部長	鈴　木　研　司	
東北地方整備局	東北技術事務所長	加　藤　信　行	

【オブザーバー】

所　属	役職名	氏　名	摘　要
（株）佐藤工務店	代表取締役	佐　藤　　敦	
コマツ	スマートコンストラクション推進本部　本部長	四家　千佳史	

所　属	役職名	氏　名	摘　要
東北地方整備局	企画部　技術調整管理官	柴　田　吉　勝	
	河川部　河川情報管理官	稲　葉　　護	
	道路部　道路調査官	大　江　真　弘	
	港湾空港部　事業計画官	藤　田　　隆	
	企画部　技術管理課長	今　野　敬　二	
	企画部　施工企画課長	山　尾　　昭	

《港湾施設の情報化施工・管理手法検討業務（仮称）》

【検討内容】①ナローマルチビーム、３Ｄレーザースキャナー等を活用方策の検討
②ドローン性能（飛行範囲、飛行限界、操作性等）の整理
③データの互換性と利用を考慮した標準仕様の検討
④データの精度管理方策の検討
⑤検討会の運営（３回）
⑥実海域におけるデータ取得（５回）と解析
⑦ＣＩＭ活用による生産性の検討

【対象工事】①八戸港八太郎・河原木地区航路泊地（埋没）付帯施設築造工事
②八戸港八太郎・河原木地区航路泊地（-14m）浚渫外工事



ＣＩＭ：ＩＣＴツールと３次元データモデルの導入・活用による生産性の向上を図る取組

	工事概要	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【対象工事（案）：外郭施設】														
八戸港八太郎・河原木地区 航路泊地（埋没）付帯施設築造工事	基礎工　捨石投入・均し 堤体工　ブロック据付　８函					準備工	▼▽測量（現状） 工事期間（H28.8～H29.2）		▽測量（マウンド部）			▼▽測量（完成断面）		後片付け
【対象工事（案）：水域施設】														
八戸港八太郎・河原木地区 航路泊地（-14m）浚渫外工事	ポンプ浚渫　150,000m3			準備工	上部工	▽測量（前測） 施工期間（H28.7～H28.8）		▽測量（後測） 後片付け						
【調査業務】														
港湾施設の情報化施工・管理手法 検討業務（仮称）	①I-co（CIM）を活用した港湾施設の整備・管理手法の検討 ②測量・解析 ③検討会の運営		契約準備（公告）			◎第１回検討会				◎第２回検討会			◎第３回検討会	
【参　考】														
酒田港北港地区 防波堤（北）（第二）築造外工事	基礎工　本均し 堤体工　ケーソン据付　２函		準備工	施工期間（H28.5～H28.9）				後片付け						
酒田港北港地区 防波堤（北）（第二）基礎外工事	基礎工　捨石投入・均し				準備工	施工期間（H28.6～H28.9）		後片付け						

凡　例
▽：ナローマルチビーム
▼：３Ｄレーザースキャナー
ＵＡＶ（空中写真測量）

港湾分野におけるｉ-Construction活用に向けた取組

国土交通省

《課　題》

①港湾施設は、波浪や地盤性状の影響によって変状が生じやすく、適切な維持管理と予防保全を実施するために、中長期に渡って観測を行う必要がある。このため、効率的な観測手法と速やかに変状の有無を確認できるデータ管理手法の確立が求められている。

②港湾施設は、台風・冬季風浪により被災を受けやすいものの、波浪により速やかに現地調査を行うことができず、波浪の影響を受けにくい調査手法の確立が求められている。

③埋没港湾におけるきめ細かな水域管理手法の確立が求められている。

④港湾整備における調査・設計から施工・検査の各段階において生産性の向上が求められている。

《目指すべき姿》

①海中データと陸上データの統合と過年度データの重ね合わせなど、長期に渡って取得したデータの互換性の確保を図る。これにより、速やかな現状把握と被災対応等が可能となる。

②取得データを発注者と受注者が共有することで、港湾整備に係る各段階（調査・設計・施工・検査）で生産性の向上が図られる。

③効果的・効率的な水域管理によって、港湾の安全性が高まる。

平成２８年度、防波堤（護岸）築造工事・浚渫工事を調査対象に、Ｉ-Ｃｏ技術（ＣＩＭ）を活用した効率的な港湾施設整備（調査・設計・発注・施工）と、適切な施設管理手法の検討を実施。

ＩＣＴ技術活用検討の対象工事(八戸港)

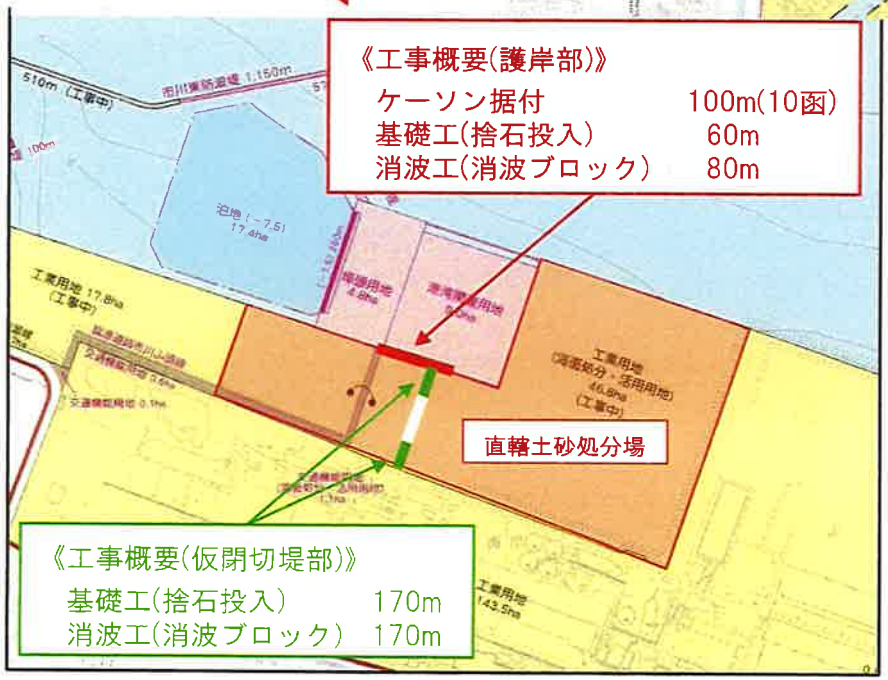


工事実施箇所位置図

八太郎・河原木地区
航路泊地(埋没)浚渫外工事

八太郎・河原木地区
航路泊地(埋没)付帯施設築造工事



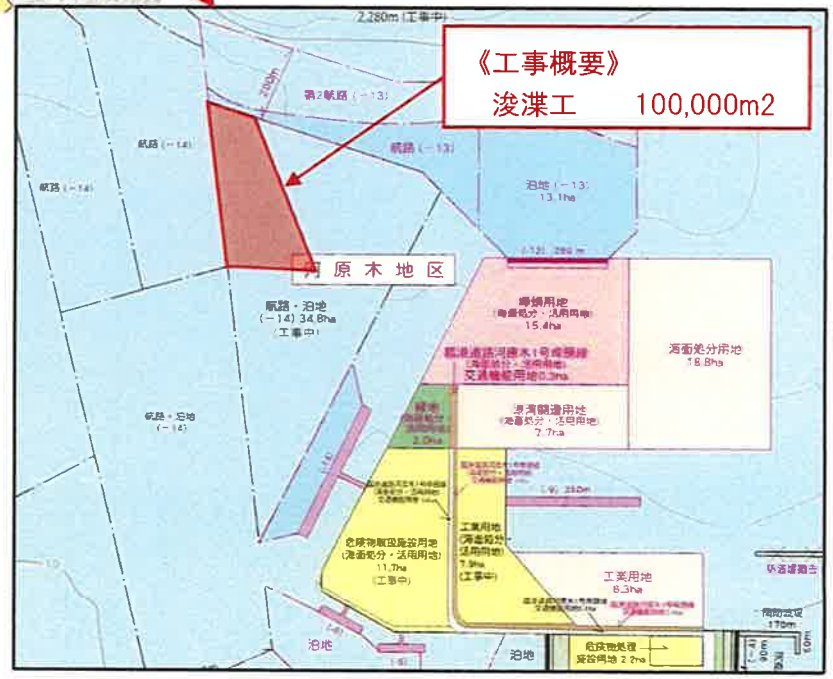


《工事概要(護岸部)》

ケーソン据付	100m(10函)
基礎工(捨石投入)	60m
消波工(消波ブロック)	80m

《工事概要(仮閉切堤部)》

基礎工(捨石投入)	170m
消波工(消波ブロック)	170m

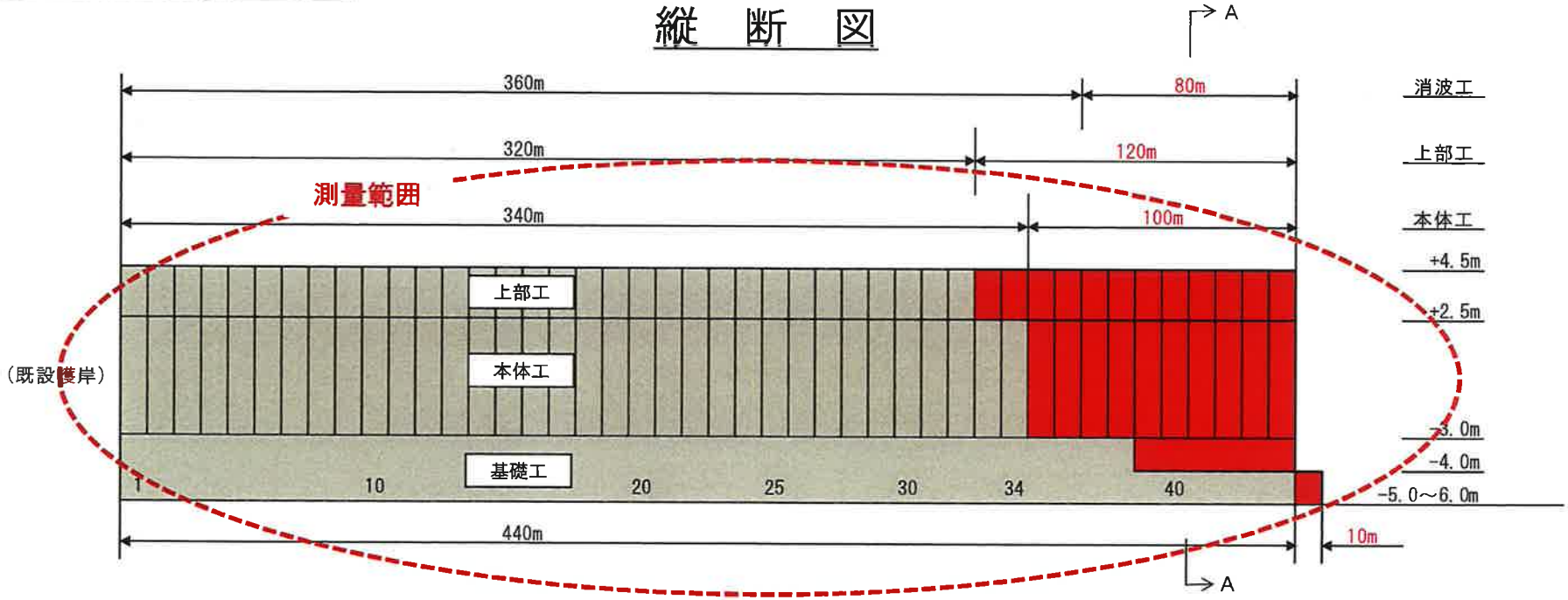


《工事概要》

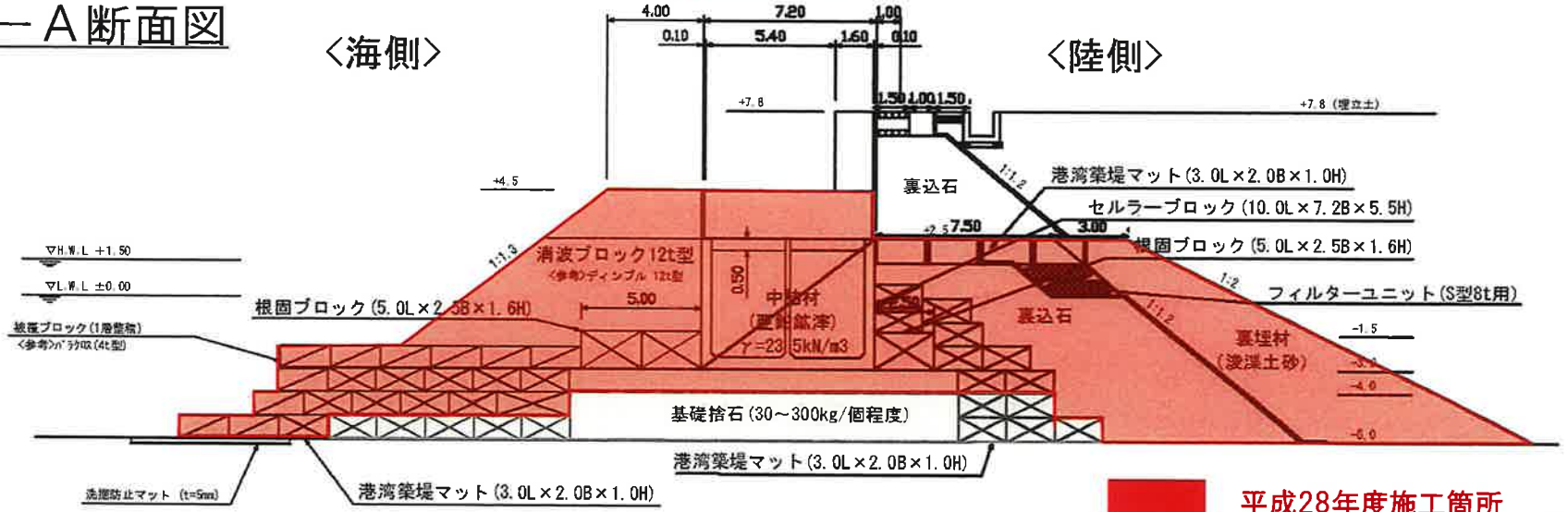
浚渫工	100,000m2

埋立護岸構造図

縦　断　図



A－A断面図

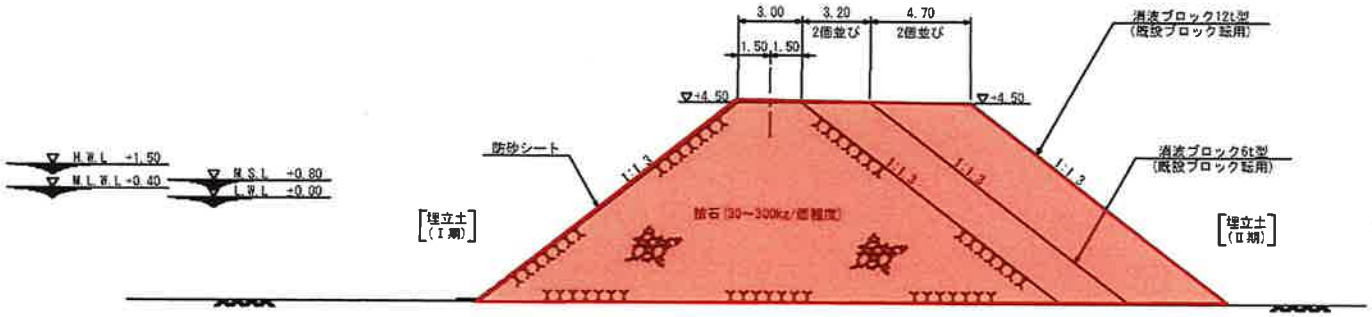


平成28年度施工箇所

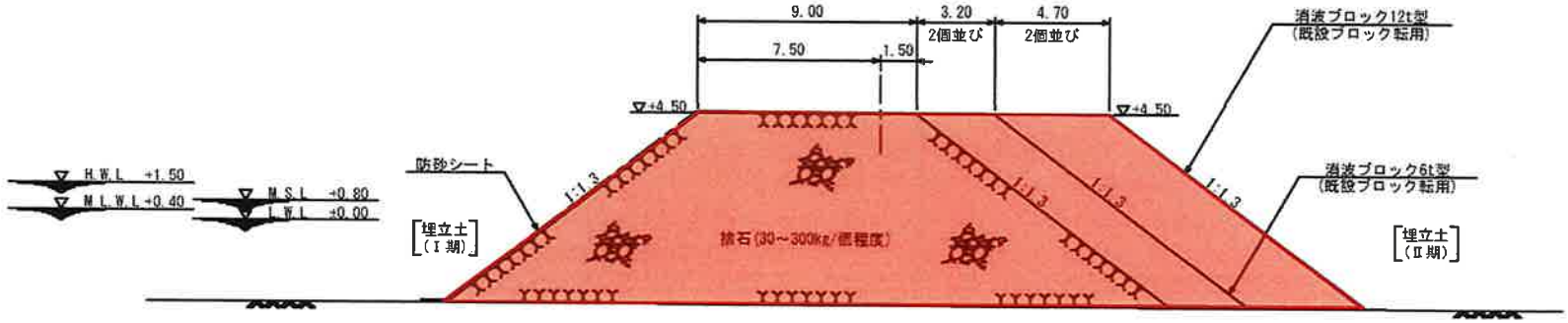
仮閉切堤構造図

測量範囲：170m

断面図(海側)



断面図(陸側)



平成28年度施工箇所

測量回数(想定)

１．埋立護岸

①着手前（延長：500m）

②本均し完成時（延長：60m）

③工事完成時（延長：500m）

２．仮閉切堤

①着手前（延長：250m）※中間部含む

②工事完成時（延長：250m）

３．航路泊地

①着手前（面積：10万m2）

②工事完成時（面積：10万m2）

（検証内容）

１．施工者の測量データと突き合わせ精度の確認

※部材毎(石、矩形コンクリート、消波ブロック)

２．着手前と完成時のデータを重ね合わせ数量の算出

等